

(仮訳)

プレス・リリース

2016年3月4日

バーゼル銀行監督委員会

バーゼル銀行監督委員会による
オペレーショナル・リスクに係る資本枠組みの見直しに関する提案

バーゼル銀行監督委員会（以下、「バーゼル委」）は本日、オペレーショナル・リスクに係る資本計測枠組みの見直しに関する市中協議文書を公表しました。オペレーショナル・リスクに係るこの新しい標準的計測手法（以下「SMA」）は、2014年10月の第一次市中協議文書に立脚したものです。

今回提案されたオペレーショナル・リスクに係る資本枠組みの見直しは、簡索性、比較可能性およびリスク感応度の適切なバランスを確保するという、バーゼル委の大きな目標の一貫です。SMAは現行のオペレーショナル・リスクに係る資本計測枠組みにみられる多くの問題点に対処するもので、特に以下の点が挙げられます。

- ・ SMAは現行の3つの標準的手法と先進的計測手法（AMA）を代替することで、規制の枠組みを大幅に簡素化したこと。
- ・ 見直し後の手法は、財務諸表をベースとしたオペレーショナル・リスク指標である「ビジネス指標」（BI）と個別行のオペレーショナル損失を統合。これにより、銀行間・法域間での所要オペレーショナル・リスク資本計測の整合性を高めつつリスク感応的な枠組みを実現したこと。
- ・ 内部モデルをベースにオペレーショナル・リスクを計測する先進的計測手法（AMA）については、オペレーショナル・リスク枠組みから除外。バーゼル委としては、規制資本としてのオペレーショナル・リスクのモデル化は過度に複雑であり、AMAによってリスク・アセット計測に過度のバラツキが生じると共に、いくつかの銀行では資本が過小であると考えていること。

バーゼル委議長のステファン・イングベス・スウェーデン中央銀行総裁は、「今回の提案は、金融危機後の金融規制改革を今年中に完成させる上で重要なステップである」と述べています。また、本提案の最終的なカリブレーションの参考にするために、バーゼル委が定量的影響度調査（QIS）を行う計画であることに言及し、「バーゼル委は、今回の提案が資本賦課の観点からはほとんどの銀行でニュートラルに

なることを期待している。本提案の目的は総所要資本を大幅に引上げることではないが、銀行によっては最低所要資本が上昇することは避けられない」と述べています。

バーゼル委は、本市中協議文書の全ての論点と本基準に係るルールテキスト案に対するコメントを歓迎します。本提案へのコメントは 2016 年 6 月 3 日（金）までに次のリンク：<http://www.bis.org/bcbs/commentupload.htm> を使用してアップロードしてください。全てのコメントは、コメント提出者が特段機密扱いを希望しない限り国際決済銀行のウェブサイトに掲載されます。